

私にとっての映像制作とは

文教育学部 人文科学科 3年

S

今回のキャリアプランニングⅡの授業での映像制作が、私にとっては初めての映像制作の体験だった。映像を撮るということは、記録に残す、誰かに何かを伝える、という面で、文章を書くことや写真を撮る、絵を描く、図を書くなどのことと同じだが、それらにはない動きや音を鮮明に記録し、伝えることができるという点で、他の伝える手段と比べ、伝わりやすかったり、またいろんな側面を見せることができたりすると私は思う。

私は映像を見るのが好きで、よく映画やテレビを見たりしている。今までは視聴者側としてみていたため、ストーリーの流れであったり、純粋に映像自体の迫力や鮮明さなどに感動したり、楽しんだりすることがほとんどで、その裏側でどのような作業が行われていて、どのような体制で撮られているのかということあまり意識することはなかった。しかし、この授業を通して、映像制作を実際に体験し、様々な工程、色々な人を通して、映像が作られているのを実感した。それを通して、映像制作において大事なことは「テーマ」と「チームワーク」であるように思った。

「テーマ」とは、その映像の軸になっていくものであって、それによって映像が形成されていく根本の部分である。「テーマ」にあわせた撮り方があり、「テーマ」に合わせて制作者は動き、その「テーマ」を視聴者の人に感じ取ってもらうことが映像制作において最も大事なことであると思う。今回のお茶大のPRビデオにおいては、「猫の視点から見たお茶大」というテーマが根本にあり、それに合わせて私たち制作者も動いていた。ビデオカメラの視線を徹底して猫の視線まで落とし、お茶大を歩くということを通して、視聴者に実際に猫の視点を感じてもらえるようなものになったと思う。また、視聴者に「なんでこんなに低い視点なんだろう」と疑問を持たせながら最後にそれを明かすという面でも、面白さがある独特の作品になったと思う。

また、「チームワーク」に関しては、何事においても大事なものであると思うが、映像制作は最終的に作品を完成させ、それを視聴者に見せて、何かメッセージを伝えるという面で、チームが一体になって作っていくことが大事だと思った。全員の意識を同じ方向に持っていないと、映像自体が統一感に欠けた中途半端なものになってしまうため、チーム全体でまとまって、はじめに意見を出し合って、作っていく過程でも意見を出し合いまとめていくことで、いい作品が出来上がることを実感した。初めに行った「お茶大のイメージを出し合う」という作業はシナリオ作りにはもちろん、テーマを固め、意見を出し合いまとめるという意味ですごく意味のあることだと実感した。

今後、映像を見ていく中でも、この二点に注目し、どのように映像が作られていったのか意識しながら見ていこうと思った。また、今度、映像制作を行うときには今回の授業の体験を生かしていきたいと思う。